

「見たり、聞いたり、探ったり」No.232 通算 No.384

青 木 行 雄

東京新宿御苑 安倍総理大臣主催「桜を見る会」に参列

平成最後の31年4月13日(土)晴天の中新宿御苑において「桜を見る会」は盛大に開催された。全国から集まった招待者の皆様と芸能人も一緒に満開の八重桜を見つつ飲食もいただきながら新宿御苑での一時を満喫した。

新宿御苑には4ヶ所の入門口があるが、大木戸門の横には駐車場があって、メイン入門口だと思われる。駐車場があるため、芸能人はほぼこの門を利用したようである。そのため、この事を知る一般人も多く(入場出来ない人も集まり)、大木戸門が一番混雑したようであった。

では先に「新宿御苑」の規模について資料より記してみた。

現在の新宿御苑が完成したのは明治39年のこと と言う。

この御苑改造計画はヴェルサイユ園芸学校の教



※新宿御苑・大木戸門。この左側より入場した。この門 の左側に大きな駐車場があった

授であった造園家アンリ・マルチネ氏の設計を基礎にして明治34年から着手され、約5ヶ年の歳月を費やして58万8千平方米(17万8千坪)に及ぶ工事を完了したと記されている。

新宿御苑には数々の特色があるがその一つはフランス風の西洋庭園の部分と全園を飾っている多数の外国産の庭園樹である。正面の両側には4列のプラタナスが列植され、広い芝生の中には雄大な見透線がのび、我が国では他にみられない特色のある庭園をつくっている。それと共に新宿御苑には我が国に最初に移入された外国樹種、例えばシーダー類、ラクウショウ、プラタナス、ユリノキなどが長い年月をかけて成長し続け、それぞれ本来の特色ある樹形をつくり出している。これらの外国樹種は現在我が国の各地に広く植栽されているが、新宿御苑のものは一番古いだけに他に見られない景趣を呈し、明治時代の造園史を飾っているという。

新宿御苑は信州高遠の藩の大名であった内藤氏が徳川将軍から拝領した邸地33万平方米(約10万坪) と、その隣接地26万4千平方米(8万坪)とを含む一帯の地で、明治5年に官有地となった。初めは大蔵 省の所管で、7年に内務省の所管に移ったが、当初から試験場として農業上各種の研究が行われ、我国 の農学や園芸学の発祥の地であった。

明治12年に宮内省に移管されて「新宿植物御苑」と称され、その後数回に亘って名称の変更があったが、39年に新宿御苑と改称された。御苑とはいうものの当時の新宿御苑は養蚕、製茶、稲作等が行われていたので、畑地がつづき、現在池になっているところには水田が細長くつづいていた農作地であった。

明治26年から新宿植物御苑は園芸に力を注ぐことになり促成栽培や温室栽培にも次第に高度の技術的進歩を生むこととなり、菊科植物の栽培、菊花栽培や桜樹の育成には最も特色がみられるものとなった。

新宿御苑は大正から昭和にかけて春は観桜会、昭和4年から秋は観菊会が催され、パレスガーデンとして海外にも著名になり、庭園としての特色に加えて桜や菊が広く知られてきた。新宿御苑の観桜会は、大正6年から殆んど毎年挙行され、昭和12年の春まで続けられた。御苑の桜は全国に拡がっているが、風景式庭園の広い芝生を中心として部分に一番多く植えられている。その種類は数十種に及び、総本数は凡そ1,000本にものぼっている。桜の種類の多いこと、殊に八重桜は日本の代表的なものが殆んど全部集められているのが特色である。このために御苑は3月下旬から4月一杯に亘って桜で飾られることになる。

少々新宿御苑の説明が長くなったが、このような広大な広さ、58.3ヘクタール(約18万坪)周囲3.5km もある新宿御苑でこの「桜を見る会」は開催されたのである。

安倍晋三首相主催のこの会は第1次政権時代も含め8回目になるという。

招待状についての書面

拝啓、春暖の候いよいよ御健勝の御事とお慶び 申し上げます

さて 左記のとおり「桜を見る会」を催すことと いたしました

御夫妻おそろいにて御来観下さいますよう御案 内申し上げます

記

日 時 四月十三日(土)午前八時半から 同十時半まで

場 所 新宿御苑

当日の服装は平服で結構です

平成三十一年三月

内閣総理大臣 安 倍 晋 三



※頂いた書状 平成31年3月25日に届いた

別紙 開催に際してのお願い文

○受付について

- ※ 開門及び受付開始は、午前八時半です。 午前十時半に終了いたします。 総理大臣は午前九時頃来園の予定です。
- ※ 受付は、千駄ヶ谷門、新宿門、大木戸門及び正門の各門で行いますので、受付票を 受付にお渡しください。

○御入園について

- ※ 警備強化の観点から、次のような措置を講じますので、御留意願います。
- ※ 当日は、入園に際して手荷物検査を行うため相当混雑が予想されます。手荷物のお持込みは お控えください。
- ※ 自撮り棒(スマートフォンやカメラで自分を撮影する際に用いる棒状の器具)
 刃物類、護身用具等他人に危害を与えるおそれのある物は、園内にお持込みできません。
- ※ 御案内状を携帯されていないと入園をお断りいたします。
- ※ 御本人及び配偶者の方のみ、御入場できます。
 書状は、他人に譲渡しないで下さい。(免許証等で本人確認をさせていただく場合があります)。

等々……。

当日は近日にない晴天で朝から晴れ上がった。私は大木戸門から入門したが、早く行った為にあまり 混雑はなかった。入門は書状を渡し簡単なチェックを受け、引換えに花付きのリボンと、全員に木作り の一合枡を手渡された。2~3分歩くと両側に八重桜が満開でその先に芝生の広場があって、テント小 屋とインスタントの丸いテーブルが数知れず用意されていた。テント小屋の中には手みやげで箱に入っ た「赤飯」や「和菓子」「洋菓子」など用意されており、テーブルの上には食事用のヤキトリやお寿しなど、



※このテントの下には料理がおいてある



※赤い椅子が所々においてあった。八重桜が見事に満 開である



※テントの中にはこんな箱に、赤飯・洋菓子・和菓子が つまっていた



※八重桜の下で外国の要人が2ショット、アフリカの 大使か?

とてつもなく用意されていた。何ヵ所もの広場には「酒樽」も用意され、野外パーティ会場にはかなりの 人も集まって来た。

外国の要人も目立ち、地方の有力者らしい御夫婦もかなり参加していた。隣に上品な老夫婦がおられたので尋ねると、「鳥取から昨日この会に参加する為に来ました。昨年(何の賞かわからないが)受賞し、招待を受け来ました(奥様の話)。こんなうれしい事はありません。長年大変苦労しましたが。」大変幸せそうな奥さんの笑顔が目に浮かぶ。また対面に親しくしてもらっている友人が御夫妻で参列されていたのがわかり、ビックリした。

安倍首相は9時半頃、多勢のSPがガードする中、会場に現われた。鏡割りの後、別の広場に用意された 塩上に立ち、少々長い挨拶があった。

挨拶は次の通りである。

「本日、桜を見る会を開催させていただいたところ、友党・公明党の山口那津男代表を始め、来賓の皆さん、そしてお忙しい中こんなにたくさんの皆さんに足を運んでいただいた。おかげさまで本年もにぎやかに盛大に開催することができた。本当にありがとうございます。」

「今回で桜を見る会も64回目となる。山口代表や皆さんとともに政権を奪還してから7回目の桜を見る会となった。忘れておられるかもしれないが、私は12年前にも1年間、首相をやっていたので、首相としては8回目の桜を見る会だ。」

「この桜を見る会に来てよかったな、と思ってもらえる要素が3つある。1つ目は天候だ。すばらしい青空だ。自慢ではないが、私は日本の晴れ男ベスト5の一人だ、あとの4人が誰かは知らない。」

「気持ちの良い天気になった。新しい元号は『令和』だが、典拠は日本の国書、『万葉集』だ。『初春(しょしゅん)の令月(れいげつ)にして気淑(よ)く風和(やわら)ぎ 梅は鏡前(きょうぜん)の粉(こ)を披(ひら)き 蘭(らん)は珮後(はいご)の香(こう)を薫(かお)らす。』花は梅から桜、八重桜に変わったが気淑く風和らぎ、素晴らしい春の一日となるそうだ。」

「そして、2つ目は花が咲いているかどうかだ。昨年は残念ながら桜を見る会ではなく、葉桜を見る会となったが、集まった皆さんには本当に楽しんで過していただいた。やはり、花はなくてもお過しいただいた皆さんが素晴らしければ、桜を見る会は成功する。今日は天気も集まった皆さんも素晴らしい。八重桜がこのように咲き誇っているではないか。本当に素晴らしい一日となった。」

「何となく春爛漫(はるらんまん)。気持ちもうきうきと華やいでくるようだ。おかげさまで4月に高校・大学を卒業し、社会人として第一歩を記した皆さんの就職率は過去最高水準を維持することができた。政治の大切な重要な責任の一つは若い皆さんにきちんと仕事があり、皆さんの自らの手で未来をつかみ取ることができるという状況を作っていくことにある。これからも私たちがしっかりと協力し、力を合わせ、政治の安定のもとで政策を前に進めていきたい。後半国会もしっかりと身を引き締めて臨んでいかなければならない。」

「10月からは幼児教育・保育の無償化が始まる。そして来年4月からは真に必要な子供たちの高等教育無償化も始まる。家庭の経済状況に関わらず、子供たちが未来に向かって進むための法案を成立させなければならない。そして、児童虐待を撲滅していくための法案の成立もしっかりと図っていきたいと思っている。」

「いよいよ平成もあと僅かとなった。平成は阪神淡路大震災や東日本大震災、本当に辛い災害もあった。 悲しい出来事もあった。しかし、日本人はお互いに助け合いながら困難を乗り越えてきた。辛く悲しい こともあったが、喜びや胸躍らせることもあった平成時代だった。多くの国々からそうした困難にぶつ かったときに手を差し伸べてもらったことも決して忘れてはならないと思う。私たちはこれからも一丸 となって被災地の皆さんが安心して暮らせる生活を取り戻すことができるように全力を尽くしていく。」

「いよいよ平成の終わりを迎え、いろんなことがあった平成に思いを寄せながら、そして天皇、皇后両陛下のご事績に思いを致しながら皇位の継承がつつがなく行われるように準備万端、全力を尽くしていきたい。そこで一句、紹介させていただきたい。」

「平成を 名残惜しむか 八重桜」

そしていよいよ、5月1日から「令和」の時代が始まる。菅義偉(すが・よしひで)官房長官に(令和と書かれた墨書を)掲げてほしいところだが、一人ひとりの花が、それぞれの花が咲き誇る時代にしていきたい。そこでさらにもう一句

「新しき 御代(みよ) 寿(ことほ)ぎて八重桜」

今日はいつもの倍、考え抜いた。





※笑顔をふるまう「アグネスチャン」帰り際に写す



※SPに囲まれて移動する、首相にハイタッチを求める 参加者



※桜の花の付いたリボンと左が和菓子と右側は洋菓子 の箱である

「平成の時代、今日咲き誇っているこの花のように、一人ひとりがそれぞれの花を咲き誇らせることがで きる、時代を一緒につくっていこうではないか。この青空、そして満開の桜の花のもとで誓い合い、今 日の桜を見る会、皆さんとともに楽しみたい。」

こんな内容の長話でありました。

その後、皆さんの前々に来て廻り、手と手のハイタッチリレーが始まった。あっちこっちとSPも一緒 に走りながら動き廻る。首相も大変だなーと思う。

10時過ぎから帰り始めた入場者、有名人、芸能人を一目見ようと、あっちこっちと走り廻る人もいて 大変だったが、又すばらしい会でもあった。

帰りにテント小屋、テーブル等には、あれだけあった、食べもの、飯物すべておわり、きれいになく なっていた。

私の二旬

「平成を 見おさめにして 花見会」

「令和(号) 迎え間近し 八重桜|

初めての経験だったが、新宿御苑もすばらしく、満開の八重桜に感動し、首相の大変な事も良くわかっ た。そしていただいた、赤飯と、洋菓子、和菓子、それに食した「やきとり」「おすし」等も特別な味がし た。感謝。感謝。

平成31年4月21日記